

知ってびっくりタバコの真実

藺 はじめ

藺はじめクリニック 院長
NPO 法人日本タバコフリー学会理事

【タバコ問題の大きさ】タバコは世界で6秒間に一人の人の命を奪っています。WHOは、毎年600万人が喫煙で亡くなり、その1割の60万人が受動喫煙で亡くなっていると伝えています。アメリカンインディアンが宗教儀式に使っていた毒草を持ち帰って、世界中に広めてしまったコロンブスも、後の世に、この毒草が、こんなにもたくさんの人の命と未来と幸福を奪うとは予想だにできなかったことでしょう。

日本は、タバコ対策後進国です。未だにパッケージの写真警告も、公共の場の「例外なき、分煙なき、罰則規定付きの完全禁煙」さえ、達成出来ていません。日本だけで、毎年196,000人がタバコによって早世し、受動喫煙で亡くなる方は、年間2~3万人と言われていきます(肺がんと、心筋梗塞だけでも6,800人と試算されています)。国際肺癌学会では、肺がんの9割はタバコによって起きていると宣言し、きっぱり禁煙を勧奨しています。

タバコ対策が遅れた日本では、まだ、タバコの真実が知らされていません。今日は皆さんにたくさんのスライドの写真やデータを示して、真実をお伝えしたいと思います。

【タバコ規制枠組み条約】世界では、タバコはもっともたくさん人を殺すNO.1キラーととらえられ、WHOが主体となって、タバコ規制枠組み条約が発効しました。現在179カ国が批准し、日本も2004年6月8日に当時の小泉首相が批准しています。ところが、とても不思議なことに、日本の国は、この条約の存在を国民に知らせようとしていません。この条約の名前を本月初めて聞かれた方も多いいことと思います。日本には、実は、この国際法と矛盾する法律があります。「たばこ事業法」というタバコの販売を国が促進する法律です。そして、タバコ問題の管轄が、厚生労働省ではなく財務省になっているという特殊な国です。タバコ規制枠組み条約は、タバコ税の値上げ、喫煙規制、自販機の規制、広告規制、パッケージの警告表示、禁煙治療の促進など、包括的なタバコ対策により、タバコの消費を減らし、規制してゆく国際法です。海外と日本の対策の違いをご覧ください。日本の喫煙者は国に騙されているのではないか、日本は「禁煙鎖国」では?と感じてしまいます。

【タバコの心と体の健康、経済、環境への悪影響】タバコは、ストレス解消どころか、精神毒性の強い、依存性薬物です。「覚せい剤の禁断症状に苦しむ方に覚せい剤を打ったら大人しくなった」という現象を見て、今時、「覚せい剤は精神安定に役立つ薬だ」とどなたもおっしゃらないと思います。切れた時につらく苦しい症状が出ることが、覚せい剤やニコチンの恐ろしい精神毒性なのです。かつては、覚せい剤も、今のタバコ同様に、「頭脳の明晰化、作業脳の亢進、眠気一掃」などの謳い文句により薬局で売られていました。これが今の私たちにとって、信じられないのと同様に、タバコが普通に売られている事実は、タバコの悪影響が科学的に明白になった現在、医学的にはとても許しがたいことです。タバコの成

分の4,000種類以上の化学物質の中で、発ガン物質は60種類以上、ガン促進物質を含む有害物質は200種類以上です。ほとんどすべてのガン、脳卒中、心筋梗塞、動脈瘤などの動脈硬化性疾患、糖尿病、肺気腫、白内障や加齢黄斑変性など、失明の原因となる眼疾患など、挙げてみればきりが無いほど、喫煙、受動喫煙を含め、ほとんどの病気の原因や増悪因子となっています。そのため喫煙者の6割は、タバコによる疾患で早死すると言われています。これらの疾患にかかる医療と介護の費用は膨大で、タバコを吸えば吸うほど、その国は貧乏になると指摘されています。

今問題になっているPM2.5ひとつとっても、タバコを吸うことを許されている屋内では、簡単に北京の大気汚染並みに上昇します。屋内の喫煙はそれだけで、規制できるはずなのに、なぜか、厚生労働省も知らんぷりです。売られているのは、タバコ販売を既得権とするタバコ会社が政治的に力を持っていて、簡単に潰せないからにすぎません。

【市民の皆さんへの提言】タバコの真実を知ると、「タバコは大人が使用するかしないかを自由に選択する嗜好品」どころか、「命と健康を守るための法律による規制の対象」であることがわかります。一日も早く、国民の意識に、国の政策に、そのようなパラダイムシフトが必要です。どうか、皆さん、タバコ問題に関心を持って下さい。喫煙者は、ご自身の健康と幸せと命、大事な家族や友人の命までを奪うタバコをきっぱりやめましょう。ニコチン依存症の治療には保険がききます。とてもよく効く治療薬も使えるようになっています。ご家族や大事な方のタバコをやめてもらいましょう。FCTCについてよく知り、社会に向けて、要望を発信しましょう。タバコこそ、最もはびこってしまっている脱法&危険ドラッグです。販売を禁止し、1日も早く博物館に閉じ込めましょう。それが、明るい未来を子供たちにバトンタッチする私たち大人の使命だと思います。

略 歴

昭和61年	国際基督教大学教育学部心理学科卒業
平成6年	筑波大学 医学専門学群卒業
平成6年	あおり協立病院内科研修医
平成8年	藤代健生病院 精神科 精神科医
平成10年	あおり協立病院 内科 内科医
平成12年	筑波大学大学院 医学研究科 環境生態系卒業
平成12年	八戸生協診療所 内科 内科医
平成12年	神戸アドベンチスト病院 内科 内科医長
平成16年8月～	菌はじめクリニック院長
平成20年6月 ～23年3月	兵庫医科大学非常勤講師&兵庫医科大学非常勤医師 第1・3・5土曜日の禁煙外来担当

著 書

- ・やめる禁煙治す禁煙
- ・禁煙外来マニュアル
- ・禁煙学第1版、第2版(共著)

社会活動

- ・兵庫県タバコフリー協会副会長
- ・日本タバコフリー学会理事
- ・平沢敬義タバコフリー基金運営委員長